伝統工芸と新技術融合を　高岡の平澤さん、精密加工で飾り皿制作

2024年1月24日 05:00

文化・くらし

機械で削った飾り皿を紹介する平澤さん

富山県高岡市の会社員、平澤紗英さん（２９）が、伝統工芸のものづくりに精密な機械加工や３Ｄ技術を生かしてもらおうと奮闘している。富山大大学院で漆芸を学んだ経験があり、勤め先の工業製品模型製造会社の高度な技術を紹介するための飾り皿などを制作。工芸イベントで発表するなど、伝統工芸と最新技術の融合の可能性を提案している。

平澤さんは富山大大学院芸術文化学研究科で漆芸を学んだ。３Ｄ技術にも興味を持ち、修了制作では３Ｄ造形と、伝統的な乾漆技法や漆加飾技法を組み合わせた作品を発表した。

卒業後は家電や車の模型製作、精密部品の切削加工などを手がけるウイン・ディー（高岡市オフィスパーク）に入社。アルミなどの金属製品を機械で精密に加工する技術や、３Ｄデータの作成や試作設計などのノウハウを学ぶ中、「伝統工芸と組み合わせられないか」と考えるようになった。

会社の理解を得て、昨年４月に高岡伝統産業青年会に入会。自社技術をＰＲするための作品作りを始めた。第１弾は飾り皿で、機械でアルミや竹の集成材を薄いところで約１ミリに削り、アルミは表面に細かな模様を付けた。中央には機械加工した真ちゅうを配した。

昨秋、この皿を工房や職人が集うクラフトフェアで展示したところ、来場者から「人の手を加えず機械だけでここまで細かな表現ができるのか」と驚く声があったという。平澤さんは「いろんな形に加工した竹や木に漆を塗ってもらうのも面白そう」と想像を膨らませる。

引き続き作品制作に取り組み、今年中に職人とコラボした制作にも挑戦したい考えだ。「新たな価値が生まれるきっかけをつくり、伝統産業界を盛り上げたい」と意気込んでいる。